

令和8年度へ、さらに一步 ~令和7年度「学校反省・振り返り」より~

岐阜市立岐阜小学校長

I. 今年度の学校反省・振り返り — 数値が示す「確かな成果」と「次の課題」 —

1. 成果① 子どもは「認められ、見守られている」と実感している

【児童アンケート（7月→12月）】

- 「友達ほめてくれる」 166 → 185 (+19)
- 「おうちの人ほめてくれる」 182 → 204 (+22)
- 「自分にはよいところがある」 142 → 156 (+14)
- 「夢中になれる学校の活動がある」 183 → 193 (+10)

- ▶ 学校・家庭・地域の多くの大人に見守られ、賞賛が循環する環境が広がったことが、数値として明確に表れています。

2. 成果② 『学校運営協議会』『地域』の考え方を、学校経営の軸として実装できた

今年度、協議会・地域で大切にしてきた考え方を学校の重点として職員全体で共有し、次の3点に取り組んだ。

- 主体性の育成
- 自己肯定感の向上
- 自校肯定感・安心感の醸成

- ▶ 特に、学年・学年部チーム担任制の導入により「担任一人の努力」に依存せず、複数の大人で子どもを見取る組織へと転換できた。

このことは教職員アンケート「心理的安全性」「励まし合い」の項目にも表れています。

3. 一方で、明確になった課題

課題① 学習面・個別支援の密度が、年度後半にやや低下

- ◆ 「分かるまで教えてくれる」
- ◆ 「思いや願いを大切にしてくれる」

課題② 主体的活動の“実感”の弱さ

- ◆ 活動の量は増えたが、「自分たちで決めている」という感覚まで届いていない子どもがいる
- ◆ 同じように賞賛しても、満足できない子どもが生まれ、分断の懸念もある

- ▶ 大人(教師も)が整えすぎてしまい、子どもに任せ切れていない場面が見えてきました。

II. 来年度の学校経営の方向 — 課題から必然的に導かれる重点方針 —

◇来年度、特に大切にしたい3つの方向

① 学級・学年の安心感を「見える化」し、学校文化として定着

- ・「どの学年でも、どの大人でもつながっている」
- ・「失敗しても大丈夫」と感じられる土台づくり

② 主体性を育む体験活動の“質的転換”

- ・「体験させる活動」から
- ・「自分たちで決め、やり切ったと実感できる活動」へ

③ 称賛が循環する学年チーム体制の深化

- ・個人への称賛 → 集団・役割・挑戦への称賛へ
- ・「できた結果」だけでなく「考えたこと・判断したこと」を価値づける

【キーワード】「自分ごと」「判断」「任される」

- ▶ 子どもも大人も「誰かがやってくれる」から一步踏み出す学校経営へ。

III. その具体としての「ふるさとふれあいフェスタ」の再定義～つながり～

1. なぜ、この行事なのか

「ふるさとふれあいフェスタ」は、**災害時の地域の姿そのもの**です。

- ・岐阜小校区地域の約500人が、学校に集まり
- ・異学年の子どもと異年齢の地域の大人が混ざり（フェスタ家族）
- ・校区内を歩き、学校に戻る

- ▶ 今年度の学校を避難所に想定した HUG 訓練 で以下の課題が明確になりました。

- ◆ 情報不足
- ◆ 役割の曖昧さ、コミュニティ・世代間・文化間の「垣根」
- ◆ 「誰かがやってくれる」という意識

- ▶ だからこそ、日常の行事の中で「判断する力」「自分ごと感」「危機感」を実感する場として、このフェスタを一段「岐阜小学校20周年の『節目』へ」進めたいと願っています。

2. 防災フェスタ構想の要点

- ☆ 新しい行事を増やす提案ではない
- ☆ 行事の枠組み（フェスタ家族・ウォークラリー形式）はそのまま

- ◇ 変えるのは、チェックポイントの「問い」
- ◇ ゴールは **学校=避難所** - 体育館・昇降口を見て
「ここに500人来たらどうなるか」を体感 - 短時間の **ミニ HUG 体験** で
「判断しないと回らない」現実を実感

▶ **子どもも大人も「自分も役割を果たさなければならない」と気づく体験へ。**

このフェスタの再定義は、**金華・京町という枠を超え、岐阜小学校区として「共に子どもを守る地域」を育てるための一歩**と位置づけています。

どちらかの地区を取り込むものでも、役割を奪うものでもありません。

むしろ**両地区が抱える課題や危機感を共有し、子どもを軸に“もっとつながる”**きっかけとしたいと考えています。

だからこそ、地域の皆様と共に検討しながら、誰も置き去りにしない形で進めていきます。

★最後に

今年度、子どもたちは「認められ、見守られている」と確かに感じています。

次に必要なのは、「**自分で考え、判断し、役に立てた**」という**実感**です。

防災は、危機が見えてから始めるものではありません。危機感を共有できた地域から、防災は始まります。

この防災フェスタは、**うまくやること**が目的ではありません。**地域の「つながり」の大切さを再確認することが最大の目的**です。

「失敗しても大丈夫」と感じられる岐阜小校区のあたたかい大人の眼差しの中で、子どもたちが「**自分たちの判断で、やってみた（挑戦してみた）!**」

そして、**子どもも大人も「本当に困る」ということを「自分ごととして」一度実感、地域で共有すること**に意味があります。

学校反省を、来年度の学校経営へ。そして、子どもたちが地域とともに歩むさらに一歩に。